



TITLE:

成吉思汗は神光に感じて生れたり
と云ふ説

AUTHOR(S):

愛宕, 松男

CITATION:

愛宕, 松男. 成吉思汗は神光に感じて生れたりと云ふ説. 東洋史研究
1939, 4(4-5): 420-420

ISSUE DATE:

1939-06-30

URL:

<https://doi.org/10.14989/138793>

RIGHT:

成吉思汗は神光に感じ

て生れたりと云ふ説

Ed. Dulaurier が、十三世紀中葉のアルメニア史家 (Guiragos) の「アルメニア史」第二卷中より抄譯した蒙古人關係の記載を讀むと、成吉思汗の出自に關して次の如き興味ある一節を發見する。

『タ、ール人は、現今汗の父なるチングス汗は人間の種ではなくして、實は目に見えざる地點より發する光線が彼の母の房の天窓より入り來つて「汝は、他日必ずや全世界に王者たらん」「吾の」兒を得ん』と之に告知して生れし者なりと確信して居る』(Guiragos は此の説の出所を明らかにして、「タ、ール人の有力者の一人 Ghion

thoun-nouin の口より直接に聞知したる Manggon 家の prince Grégoire が自分に話した」ものであると云つて居るより推して、少くとも汗の説が當時アルメニア地方の蒙古人の通念であつた事は認められるであらう。

成吉思汗は神光に感じて生れたる者であると云ふ説の中に、吾々は容易に蒙古人の抱懷し更に其を外國人に迄主張せんとする合汗神權説の思想を看る事が出来るのであるが、而も此の場合其の神秘性を表示する爲に特に「光に感じて生れた」と云ふ表現が採用されて居る點に特殊な注意が惹かれずにはをられない。

Bürte China と goua narai に依て示された狼鹿交配傳説と、Alan goua を中心とする感生傳説との二様式を結合して出來上つて居る秘史所傳の蒙古

の傳説に於て、後者が其の原本的な形である事は已に内藤博士によつて指摘せられた。此事實は他面 Allan tobči 蒙古源流 Rashid al-Din「集史」Abul Ghazi「土耳其系木一」に於て、孰れも前者が夫々其の輪廓を變じて行くに對し、獨り後者のみ依然として秘史と符號した形を保て居るに徴して確認される所である。Alan goua の光に對する感生の説、更には之から導き出された Zhiuna 族「光より生れたる者」の説を通じて、其所に光に對する蒙古人の神秘觀が認められるとすれば、之は唯に蒙古人に限らず、同一類型に屬する傳説を保有するツングース諸族・ウイグル乃至契丹人に於ても同様であるが、成吉思汗は光より生れたりと Guiragos の記載は、此所に其の成立の根據を認め得られるのではなからうか。

(愛宕)